

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	1年次	単位数	2単位	
教科書	東京書籍 家庭基礎			副教材	なし			
レポート 添削指導	6通	スクーリング 面接指導	4回	メディア 視聴票	2通	試験	2回	
指導 目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座) ※家庭総合から該当単元抜粋		
1	4月12日	5月22日	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	第1章 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる 第2章 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	1	1 自立ってどういうこと？ 2 人生設計…今できることは？ 4 対等な関係ってなんだろう？ 6 家族ってなに？ 8 ご近所づきあいはメンドクサイ？		
2	5月22日	6月19日	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる	第3章 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境 第4章 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	1	9 私の体は誰のもの？ 10 赤ちゃんってどんな生き物？ 11 どんな子育てをしたい？ 12 子どもが子どもでいるためには？ 13 「高齢者」って誰のこと？ 14 要介護…どう支える？ 16 共に生き、共に支える 17 「それがフツウ」…本当に？ 18 気づいている？多様化する社会	1	
3	6月19日	7月17日	第5章 共に生き、ともに支える 第6章 食生活をつくる（5調理の基礎まで）	第5章 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる 第6章 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	1	19 なんのために人は食べるの？ 20 栄養バランスをとるコツは？ 21 食生活 はじめの一步！ 22 調理の仕方はどう学ぶ？ 23 いろんな人 いろんな食事 24 食べられるのが 当たり前？ 25 なんのために人は着るの？ 26 服の理想の素材とは？ 27 大切な1着を長持ちさせるには？		
4	7月17日	10月29日	第6章 食生活をつくる（6食生活の文化と知恵から 第7章 衣生活をつくる	第6章 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活 第7章 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	1	31 なんのために人は住むの？ 32 どんな部屋で暮らしたい？ 36 買い物で失敗…どうしよう？ 37 どんなふうに通きたい？ 38 お金と人生の幸せとは？ 39 どうなってる？100年後の暮らし 40 これからの人生をどうしたい？	1	
5	10月29日	11月27日	第8章 住生活をつくる	第8章 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	1			
6	11月27日	1月23日	第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	第9章 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活 第10章 1 持続可能な社会を目指して 第11章 1 生活をデザインする	1			
学習の成果に係る評価規準								
<p>【知識・技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p>								
<p>【思考力・判断力・表現力】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p>								
<p>【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p> <p>○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。</p> <p>○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。</p> <p style="text-align: center;">単位の修得の認定に関する基準</p> <p>観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。</p>								